

蟹江町歴史民俗資料館 おうちミュージアム

かにえまつり
第22回 蟹江祭の歴史(答えと解説)



(1936年(昭和11年)の蟹江祭)

今回のおうちミュージアムでは、かにえまつり蟹江祭の歴史についてしょうかい紹介します。

この写真は1936年(昭和11年)の蟹江祭の様子です。今の蟹江祭と比べると、人も多くはな華やかに行われていました。

かにえまつり
① 蟹江祭は、いつから行われていたでしょう
か？

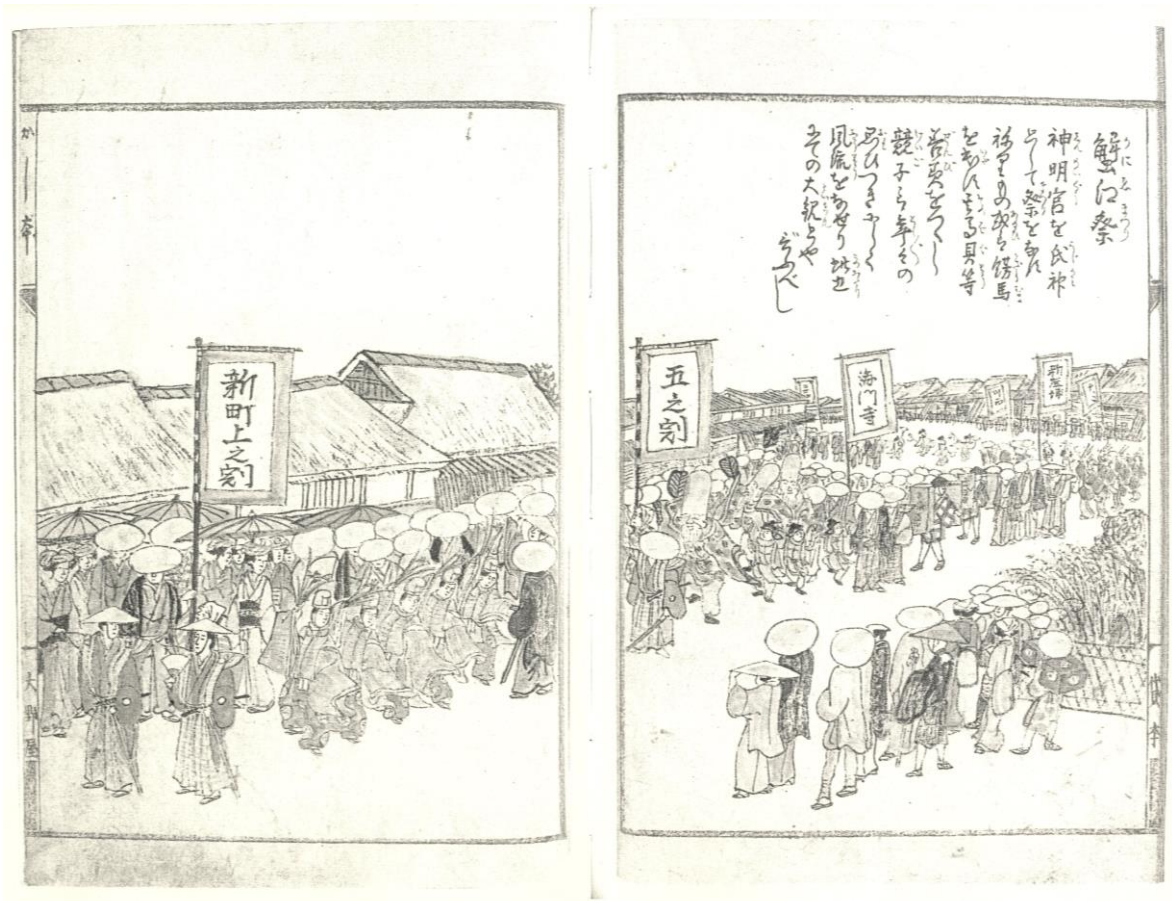
ア 江戸時代

イ 明治時代

ウ 昭和時代

答えは、「ア」江戸時代です。

かにえまつり
蟹江祭の歴史は古く、江戸時代までさかのぼります。そのなかでも有名なエピソードが、おわりはん尾張藩6代目の殿様であったとのさま徳川継友に招かれて、なごやしやう名古屋城のそばで蟹江祭をひろう披露したことです。およそ2000人がさんか参加したとされ、蟹江祭のはな華やかな行列を見た継友は、とてもよろこ喜んだと伝えられています。



江戸時代の蟹江祭(『尾張年中行事絵抄』より)

かにえまつり
② 蟹江祭では、祭りの中で行われるあることが有名でした。それはなんですか？

ア 道行踊 みちゆきおどり

イ 道行歌舞伎 みちゆき 歌舞伎

ウ 道行萬歳 みちゆきまんざい

答えは、「ア」道行踊です。

昔は祭りの余興として各町内で「道行踊」が行われ、演技や豪華さを競い合っていました。演じるテーマは「牛若丸と弁慶」、「忠臣蔵」、「宮本武蔵」など、昔話やお芝居の1シーンが多かったようです。また、7～15歳ほどの少女が演じていたことから、蟹江祭は若者の祭りであったともいわれています。

しかし、時代の変化とともに少しずつ演じる人が減り、今では一部の町内を除いて行われなくなりました。



昔の蟹江祭で演じられた道行踊

かにえまつり かにえしんめいしゃ どうぶつ
③ 蟹江祭が行われる蟹江神明社には、ある動物
の像があります。なんの動物でしょうか？

ア 牛

イ 馬

ウ うさぎ

答えは、「イ」馬です。

かにえしんめいしゃ ぞう かにえまつり あいちけん
蟹江神明社には、馬の像があります。蟹江祭などの愛知県のお祭りでは、馬をきれ
いに清めてから全身をきれいに着飾った「飾馬(馬の塔)」が神社に奉納されました。
かざりうま きかざ かざりうま うま どう
飾馬が奉納されるのは神社の建物を新しくしたときなどの特別な年でした。しかし、
1988年(昭和 63 年)を最後に、さいご
飾馬を出すことはなくなりました。

蟹江町歴史民俗資料館には、かつてごのちよう しんやしき ばく
五之町と新屋敷で使われていた馬具(飾馬に使
った道具)がてんじ しょうみ
展示してあります。興味をもった方は、ぜひ見学に来てください。
(特別展の期間中など、ご覧いただけない場合もあります。)



蟹江神明社の馬の像

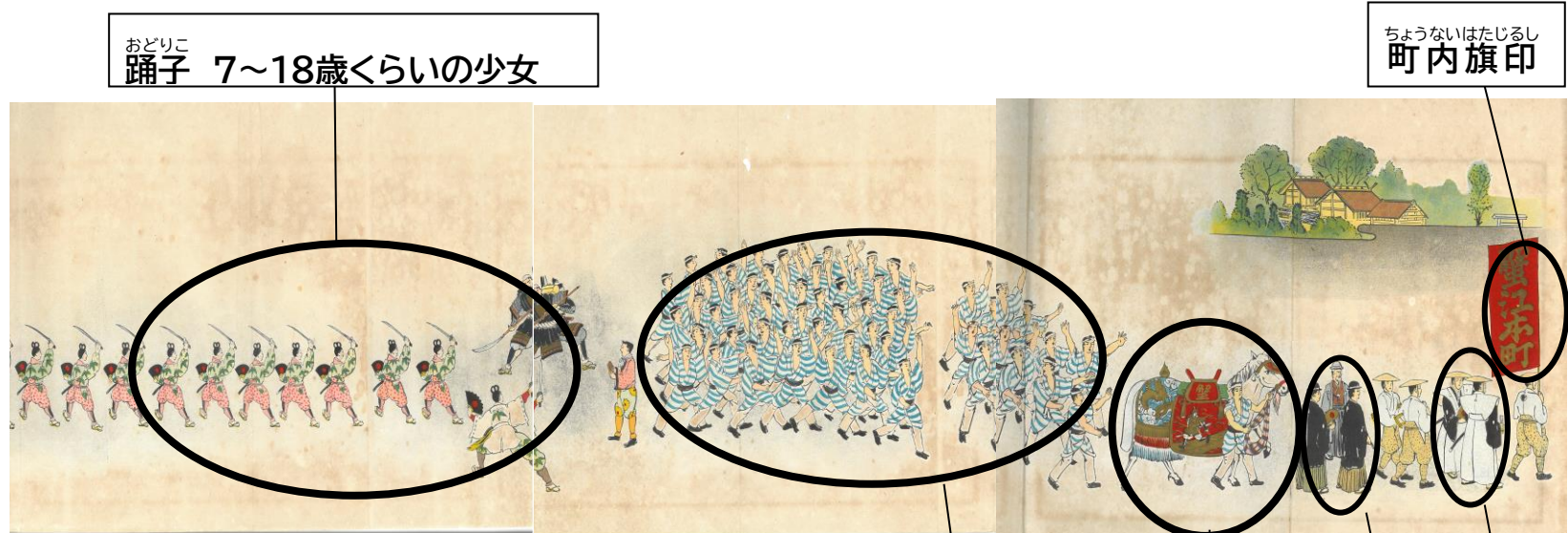


昔の蟹江祭の飾馬



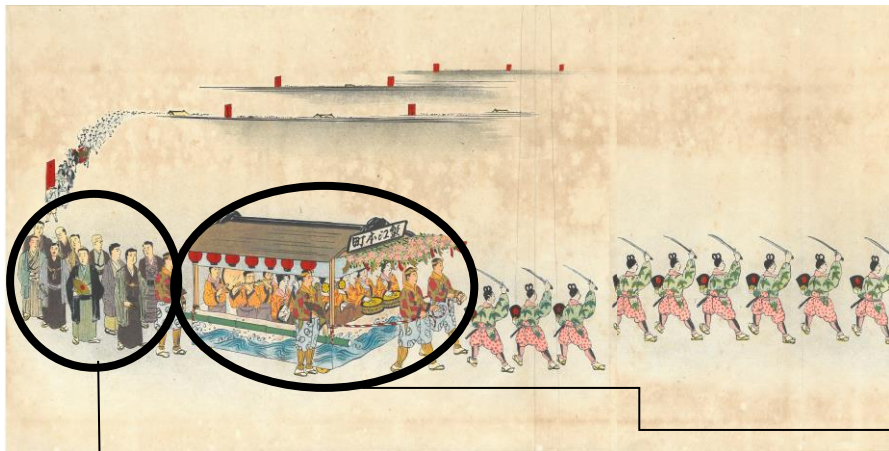
蟹江町歴史民俗資料に展示
されている馬具

ほんかくてき よきょう ようす ごうしゃしんめいしゃしょうかくきねんちよう
 昔の本格的な祭りの余興(出し物)の様子(「郷社神明社昇格記念帖」1925年(大正14年)より)



おどりこ
踊子 7~18歳くらいの少女

ちょうないはたじるし
町内旗印



ごえいしや
護衛者 43歳以上の男性全員

ちょうないそうじゃ
町内壮者
42歳以下の
男性全員

かざりうま うま とう
飾馬(馬の塔)
ごうか ばぐ
豪華な馬具で飾
り立てた馬

さいりよう
宰領
代表者

まつりやかた
祭屋形

はおりばん
羽織番
代表者の付き添い